

小・中・高等学校を見通したキャリア教育に関する研究

～教師の「自律を促すフィードバック」と生徒の自尊感情の関係～

高知市立西部中学校 教諭 建沼 友子
高知県教育センター 指導主事 白井 裕史

本研究の目的は、A中学校において、生活ノート（「My book」）を活用した生活指導を通して、生徒のキャリア発達の基盤となる自尊感情を高めることを実践的に検証することであった。具体的に、A中学校が取り組んでいる「My book」を用いた、教師によるキャリア発達の視点を踏まえたコメント（自律を促すフィードバック）による生活指導を行った。A中学校 542名の生徒を対象として、自尊感情測定尺度（東京都版）と「My book」に関するアンケートを実施し、自尊感情の変容について測定した。また、「My book」におけるコメントの分析を通して、生徒の自尊感情を高めるコメントのカテゴリー化を図った。その結果、「自律を促すフィードバック」によって、特に、第3学年の生徒において、自尊感情の下位概念である「関係の中での自己」、「自己主張・自己決定」が高くなり、また、教師との信頼関係の構築が図られた。さらに、教師のコメントからは、「認める」「ほめる」をはじめ、生徒の自尊感情を高めるための6項目からなるコメントのカテゴリーが抽出された。

キーワード：キャリア教育、自尊感情、自律を促すフィードバック、生活指導、生活ノート

1 研究目的

(1) キャリア教育の必要性

平成20年3月に告示された中学校学習指導要領では、生徒の「生きる力」を身に付けることがますます重要であるとしている。学校教育において、「生きる力」を身に付けるためには、直面する様々な課題に柔軟にかつたくましく対応し、社会的自立・職業的自立に向けたキャリア教育を推進することが重要である。キャリア教育を効果的に推進するためには、キャリア教育の意義を理解するとともに、校長のリーダーシップのもと、学校経営方針にキャリア教育を位置付けること、校外の諸機関との連携を図りながら、体系的・系統的に取り組むことが重要である。本研究は、A中学校において、キャリア教育を推進するための取組を開発し、その効果を実践的に検討しようとするものである。

(2) キャリア発達の基盤となる自尊感情の重要性

中学校において、キャリア教育を推進するためには、生徒に、直面する様々な課題に対して立ち向かい、未来を切り開くための基盤となる「自尊感情」を醸成することが重要である。梶田（1985）は、自尊感情とは“自分自身を基本的に価値のあるものとする内的な感覚”といった自己概念の一つであること、また、伊藤ら（2010）は、他者との関わりを通して、現実の自己を直視し、それを受け入れることができるよう好ましい自己概念を育てることが大切であるとしている。

研究対象となるA中学校の生徒は、概ね明るく、活発で、学校行事や部活動に熱心に取り組むこ

とができる。一方で、生徒同士の人間関係が希薄で、集団活動を通じた社会性の育成が不十分であること、将来を意識した学習や生活態度が十分に身に付いていない、といった課題がある。A中学校では、このような課題の解決に向けて、学校経営方針に人権教育を基盤としたキャリア教育の推進を明確に位置付け、生徒の職業観・勤労観の育成及びキャリア発達の基盤となる自尊感情の醸成に取り組んできた。しかし、全国学力・学習状況調査の結果から、生徒質問紙の質問項目の一つである「自分にはよいところがある」に対して、32%の生徒が否定的な回答している。このことから、A中学校の教師は、生徒のキャリア発達と自尊感情との関連性や自尊感情を高めることの必要性は意識しながらも、学習指導や生活指導等の教育実践が十分に機能していないことが推測される。そこで、本研究では、キャリア教育の視点を踏まえた自尊感情を高めるための生活指導（以下、本研究では「自律を促すフィードバック」とする）を実践し、その効果について検討することを目的とした。

2 研究仮説

教師の「自律を促すフィードバック」は、生徒のキャリア発達の基盤となる自尊感情を高める。

3 研究内容

(1) キャリア教育の視点を踏まえた自尊感情を高めるための生活指導

大前(1998)によれば、「教師が与える影響として（省略）生徒は教師に認められたと感じれば、自己評価も高くなり、学校生活が充実していると感じる」と考察している。そこで、生徒の自尊感情を高める生活指導を考えるうえで、A中学校で取り組んでいる生活ノート「My book」に着目した。この「My book」を用いた生活指導は、生徒の自己管理能力を高めるために取り組んでいるものである。具体的に、生徒は「My book」に、1日のスケジュールや日誌を記入し、教師はその内容に対して認め、励ましといったコメントを行う。

キャリア教育では、「基礎的・汎用的能力」を構成する4つの下位能力である「人間関係形成・社会形成」、「自己理解・自己管理」、「課題対応」、「キャリアプランニング」を身に付けることを目指している。本研究では、これら下位能力の視点を踏まえ、「生徒が自分に自信を持ち、学習や行事に向けて頑張ろうとしたり、仲間とともに一つのことに向かって取り組もうという気持ちになる」教師による、認める、ほめる、考えさせる、受容する・共感する、励ます、感想を伝えるなどのはたらきかけ（「自律を促すフィードバック」）が、生徒の自尊感情を高めると考えた。なお、A中学校では、「My book」を活用した取組を全校で共有することにより、「自律を促すフィードバック」を十分に機能させることを目的とした校内研修を11月に実施した。さらに、校内研修後に「My book」におけるコメント内容の分析を通して、キャリア発達の基盤となる自尊感情を高める教師コメントのカテゴリー化を図った。

(2) A中学校の自尊感情の変容の調査

「自律を促すフィードバック」による生活指導が、A中学校の生徒の自尊感情に及ぼす効果を検討するために、22項目からなる自尊感情測定尺度（東京都版）を用いて質問紙調査を行った。なお、本尺度は「自己評価・自己受容」「関係の中での自己」「自己主張・自己決定」の3つの下位尺度から構成されている。調査対象者は、全学年542名（第1学年189名、第2学年167名、第3学年186名）であり、実施時期は、校内研修前と校内研修の1ヶ月後（以下「校内研修後」とする）であった。また、校内研修後に全学年の生徒を対象にした「My book」に関するアンケート調査を実施した。

4 研究結果

自尊感情測定尺度（東京都版）を用いて、校内研修前と校内研修後における、3つの因子の下位尺度得点の平均値について比較した。その結果、特に、第3学年における「関係の中での自己」と「自己主張・自己決定」の校内研修後の平均値が、校内研修前の平均値に比べて高くなった。また、「My book」に関するアンケート結果から、特に、第3学年の生徒の多くが「励ましてくれる」、「ほめてくれる」「うれしい」、「頑張ろうと思うことができた」と回答していた。よって、第3学年において、「自律を促すフィードバック」は、教師との関わりを通して関係性が深め、生徒の自尊感情が高まったと考えられる。また、進路実現という課題に直面しているために、キャリア形成の視点を踏まえた教師のコメントによって、自己主張・自己決定の重要性を実感した結果、生徒の自尊感情が高まったと考えられる。

さらに、「My book」への教師のコメント内容は、「認める」「ほめる」「考えさせる」「受容する・共感する」「励ます・感想を伝える」「教師の体験・経験による自己開示」といった6つのカテゴリーに分類することができた（表1）。教師は、これらのカテゴリーを意識し、意図的に「自律を促すフィードバック」を行うことで、生徒のキャリア発達の基盤となる自尊感情を効果的に高めることができると考える。

表1 「My book」における教師のコメントのカテゴリー（抜粋）

フィードバックのキーワード	基礎的・汎用的能力	具体例	使われる言葉
認める 本人も気づかないような「できていること」や当たり前のように「やっていること」について言葉がけをすること。	人間関係形成・社会形成	みんな剣道に真剣に取り組むことができていましたね。	<ul style="list-style-type: none"> ・～できているね（できたね）。 ・～のようですね。 ・～学びましたね。・自信を持って～。 ・当たり前になってきたね。 ・～が伝わってきます。 ・～してくれたね。・～が大事ですね。 ・期待しているよ。
	自己理解・自己管理	生徒会新旧交代式おつかれ様でした。ステージの上は緊張したことでしょう。	
	課題対応	なにかを上げてあげる時に、相手に楽しんでもらいたかったら、自分にとっても楽しいことをすることは大事なことです。	
	キャリアプランニング	きれいにそうじができましたね。	

5 研究の成果と今後の課題

本研究で提案する「自律を促すフィードバック」によれば、特に、進路実現という課題に直面している第3学年の生徒のキャリア発達を基盤とした自尊感情が高まることが明らかとなった。今後は、全学年の自尊感情を高めるために、学年（発達）も考慮した「自律を促すフィードバック」の方法を検討すること、そして、全教職員が、カテゴリー化した「自律を促すフィードバック」を汎用できるための、校内研修プログラムについて検討することが必要と考える。

【引用・参考文献】

- ・梶田叡一（1998）『自己意識の心理学（第2版）』東京大学出版会
- ・大前泰彦（1998）『中学生の学校適応感に関する研究』和歌山大学教育学部教育実践研究指導センター紀要 No. 8
- ・伊藤美奈子・若本純子（2010）『自尊感情や自己肯定感に関する研究 1章 学校現場で求められる自尊感情の再吟味と測定尺度の作成』慶応義塾大学報告書

資料1 「My book」における教師のコメントのカテゴリー

フィードバックのキーワード	基礎的・汎用的能力	具体例	使われる言葉
認める 本人も気づかないような「できていること」や当たり前のように「やっていること」について言葉がけすること。	人間関係形成・社会形成	みんな剣道に真剣に取り組むことができましたね。	<ul style="list-style-type: none"> ・～できているね（できたね）。 ・～のようですね。 ・～学びましたね。 ・自信を持って～。 ・当たり前になってきたね。 ・～が伝わってきます。 ・～してくれたね。 ・～が大事ですね。 ・期待しているよ。
	自己理解・自己管理	生徒会新旧交代式おつかれ様でした。ステージの上は緊張したことでしょ。	
	課題対応	何かをしてあげる時に、相手に楽しんでもらいたかったら、自分たちにとっても楽しいことをすることは大事なことです。	
	キャリアプランニング	きれいにそうじができましたね。	
ほめる 努力していること、頑張っていることなどについて言葉がけをすること。	人間関係形成・社会形成	〇〇部ではきちんとキャプテンが部員に伝えることができていますね。	<ul style="list-style-type: none"> ・～すばらしい（と思うよ）。 ・すごいね。 ・～頑張りましたね。 ・いいですね。
	自己理解・自己管理	そんなことを考えていることがすばらしいと思うよ。	
	課題対応	昨日早く学校が終わったからしっかりと家庭学習ができましたね。	
	キャリアプランニング	グラウンドをなんとかしてでも練習しようとする気持ちが大事です。	
考えさせる 今の状態でいいのか、もっと良い方法はないのか、自分を振り返るような言葉がけをすること。	人間関係形成・社会形成	自分にしかわからんこともあるけど、その場の雰囲気とか感じたり、気づかいのできる人になれるといいですね。	<ul style="list-style-type: none"> ・～はできたかな？ ・～しましょう。 ・～していますか？ ・～してほしいです。 ・～したいね。 ・当たり前になりたいね。 ・他には？
	自己理解・自己管理	テストの出来はどうでしたか？発表中はじっくりと取り組むことができたでしょうか？	
	課題対応	今週は部活からきりかえて机の上に向かう時間を増やしましょう。	
	キャリアプランニング	成功は失敗をくり返したのちにあらわれてきます。	
受容する・共感する 相手の感情に寄りそった言葉がけをしたり、相づちをうったりすること。	人間関係形成・社会形成	皆が入部してくれたら迫力のある演奏ができそうですね。	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。 ・～だよ（ですね）。 ・～でいいですね。 ・～しますね。 ・～でいいですね。 ・～が必要ですね。 ・大変だね。 ・良かった。
	自己理解・自己管理能	自分がしんどい時に助けになってくれる友だちがいれば安心ですね。	
	課題対応	今週はアツという間に終わってしまいそうですね。	
	キャリアプランニング	皆自分がやりたいと思っけていてもなかなかできないですね。	
励ます・感想を伝える 気持ちが奮いたつような言葉がけをしたり、元気づけたり、感じたことを言ったりすること。	人間関係形成・社会形成	3年生として部をリードする準備もしっかりとしていかんとね。がんばりましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・頑張ってね。 ・一緒に頑張ろう（頑張っていこう）。 ・～してあげてください。 ・～だといいいですね。 ・楽しそうですね。 ・気にしない。 ・～していこう。 ・～思ったよ。 ・ありがとう。 ・感謝しているよ。
	自己理解・自己管理	まずは自由な時間をダラダラせずに時間を決めて勉強すること。チャレンジしてみましょう。	
	課題対応	同じ失敗をしないように、冬休み中に復習をしっかりとやっってください。	
	キャリアプランニング	皆の見えない所で活動してくれるおかげで、キレイな環境が保たれています。ありがとうございます！	
教師の体験・経験による自己開示 自分の体験したこと、考えたこと、思っていることを生徒の悩みや思いに応じて柔軟に臨機応変に語ること。	人間関係形成・社会形成	先生もハードルは高く速くとぶのがダメなので苦手です。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が子どもの頃の話。 ・他の先生の思いを伝える。 ・ルールやマナーに関して。 ・先生も頑張ります。 ・感謝を示す。 ・情報を仕入れようとする。
	自己理解・自己管理	そんな思いが一番強いのは〇〇先生です。	
	課題対応	先生も人生に反省が多くて困っています。	
	キャリアプランニング	学校の中でそんなことがあるなんて信じられないし、許せません。	